



松根七湯琴



ル 4
1124
4



凡 1124
4



宮根七湯禁卷之四

堂ヶ嶋の部

目錄

一湯宿並効驗

一夢窓田師の傳

一堂ヶ嶋全図並八景詩哥

一白糸滝畷

一同所古碑の寫

湯宿丑軒

奈良屋六郎兵衛

逝江屋半兵衛

江戸屋與右工門

大和屋太郎左工門

丸屋孫兵衛



このまゝなり凡九尺中奥の二つもあぐくおろ岩
宮や其間より温泉涌おろりいん入る方あり
先是中りのりれと皆に産の尻の方より湧き
あふちりていささか湯を産と云ふは但し
出口のまゝ向ひ居れば志のびりて次あり
あゝまゝなり汗あふりて心地
よきまゝ物なりりりて其名の様物産
ホの凝りりてちりりりて婦人氣塊男子腰痛
なす押りて迷に治らるるゆなり

夢窓國師傳

天龍閑山夢窓正貫心宗普濟國師後醍醐天皇の
建治五年乙亥の十月父六世別所の源氏守多天皇九
世の孫なり母平氏乃月て男子と生るるを預ひ

て親より祈願一夕金龜の光り一箇西より来り口に
入るる後むすてのち有身十二月を産く誕生し
母がしほ悩む所なり新しき十歳の時後醍
て親應辛卯年九月十日慈母とて遊に親也不
愛門人ホ令身とすて今流り培師を建治五
年乙亥の十月十日親應辛卯年十月十日
まの年七年有八

國師の事天龍寺法縁とてその
書中より嘉暦元年丙寅九月福師編念り
おろ水福寺の後と庵とありて南音とては同年
廿二歳同年八月移り今居山と居り瑞泉蘭若
と建治後甲州龜山庵に住り山居り又上州
長赤とておろ如也山居とてたれは書か

宮ノ下近
此山半腹
木ノカクレ
ノ滝アリ

湯ホラ

薬師堂

奈良ヤ六堂

早川流

江戸ヤ六

夢窓国師
地開居ノ





此道本道
ノホレハ本道
出ル塔ノ沢エ
ミナナリ



湯ホラ

大和屋夫と屋

凡屋

凡屋孫兵工

大滝湯

大和屋向店

小滝湯

道江半登

白糸滝道

もも宗居ありと見えたりあるも世不さび
焼夫してその代も山居座標石も後へ居さけ
た道も大しとありありの知さるるに遊るる
ゆへ

又は地より山居山より山居宗居の跡何事
玉師この山の風景を愛して来りあり馬首を背
を何と見え居ひ目し世と持てこそとま
新古并と思ふあれ又らちかして世の
世と持てく人いりく世と持てく不あり穢り
この山にあり法程すかありとてしとて
かひりり

世れ中とていふとはあるまもむひめ
かりり山がけなり

其後高松黄門公國師宗居の跡とてあり
國師の跡より一首とて即ち座標石も形あり
志の人山居のこもありあり

座標石のつものやくありあり今いふのこも
ありありけりありありありありありあり
ありありありありありありありありありあり

當新華師佛に法法大師の他なり武藏國豊後郡
南抄後日風法師を名たりありありありあり
来り三七の法ありありありありありありあり
骨ありありありありありありありありありあり
湯のそりありありありありありありありあり



ツリカ子岩

夢窓山



白糸之滝

白糸の滝

嘗て一のの長川に川を隔てて白糸の明林
秘の裾より流るる滝はたたり凡て水中滝橋をそ
くしててむく和のあり滝をくくをくかたを
夏くくをくくをくくをくくをくくをくくを
とくくをくく又くくをくくをくくをくくを
てくくをくくをくくをくくをくくをくくを
そびく水先を白馬の尾と記せばあり

堂々嶋八景詩歌

医王櫻花

托根巖岫奪煙霞
培得琉璃壺底汎

宮下雲霞

竹旗々曳々陟崑岡
春陰更間杜農夫

たのめくちくちく切く法の花曇風白く山のさくく

夢窓薰風

經過浮雲流水邊
溪湍涵得琴箏響

澗水流螢

かきここのり夏の岩収の管根山凡も少くくありくの影

嬌艷賞遊楚叟家

醫王管領本朝花

霞暉雲影是和光

松拍煙温宮下湯

箱山忘夏偶盤旋

奏起南薰一味禪

一脉澗泉抱石流
 峇痕點々凄冷影
 たつねの山路くして滝川くくく
 宵行熠燿亂巖洲
 風外數星六月秋

前山新月

斜陽没入嶺冥々
 遠岫風過雲吐月
 秋ふくくけいしりい言やぬりうくく
 露雨雪凄感標零
 清光排闥落閑庭

底倉幽

風殮露宿競秋客
 幽草深々無垢界
 秋ふくく 苔沓とりの底倉の岩根くくく
 巖瀑流過滌疾疼
 紫雲天樂聽陰蝨

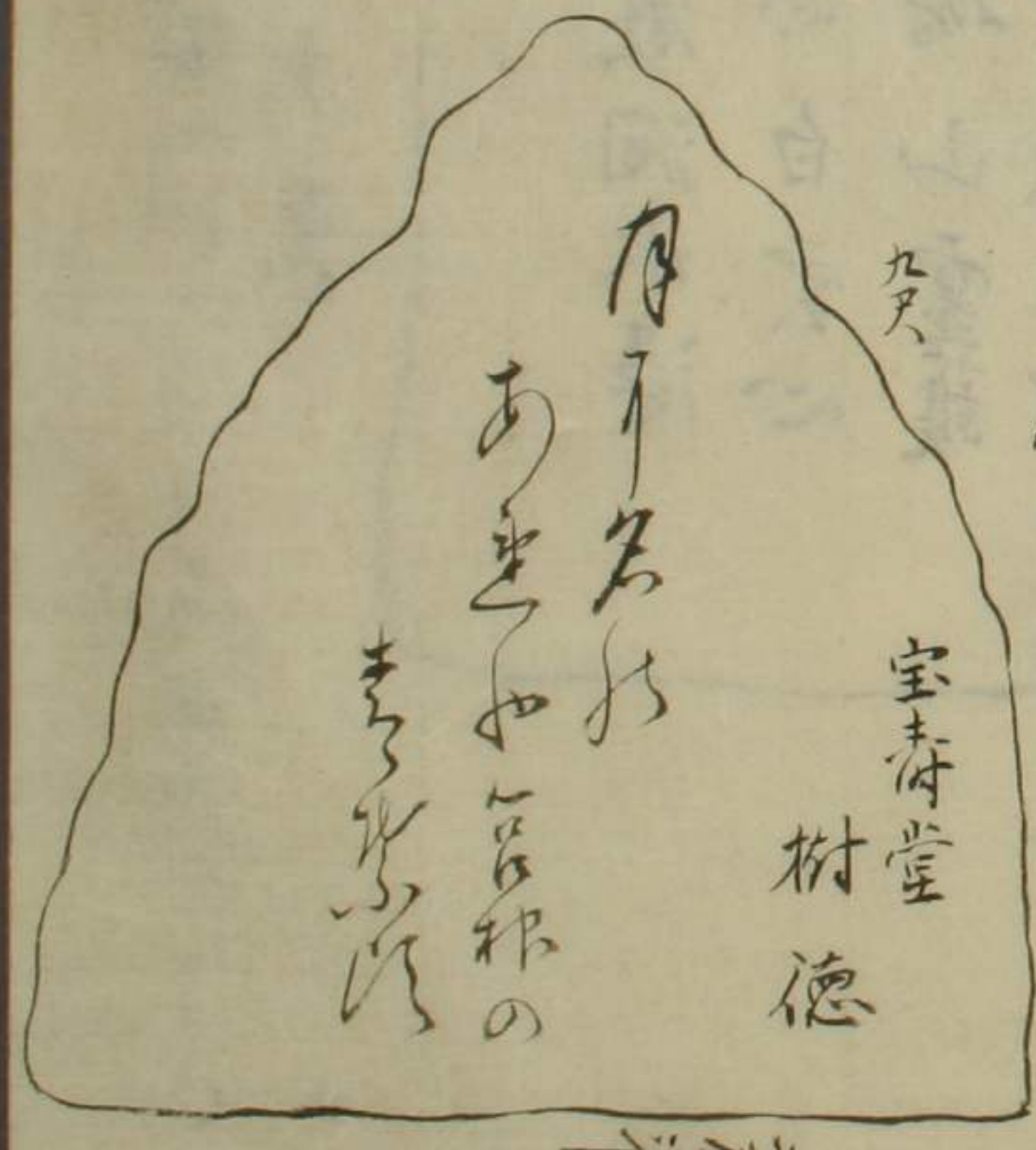
絲瀑寒、蘆

素絲千尺脱機工
 霜沍鷺鷥眠不濃

松韻是箏潭是鼓
 湖河しとしとささくゆへ滝つせの岸くゆゆるおの枯芦
 山行蘆帶練舞寒風

羊腸積雪

歲莫嵯峨飛王塵
 不香花發四山雪
 宵の回くけいしりい言やぬりうくく
 風前改觀詠歸人
 直下堆々銀界春



宝壽堂
 樹徳
 月不名れ
 あまの山名
 まるく

